

# GIMP によるトリミングと明るさの調整

高機能グラフィック編修・加工ソフトである GIMP による連続5回講座の最初の講座は写真加工で最も基本となる「トリミング」と「明るさ調整」です。

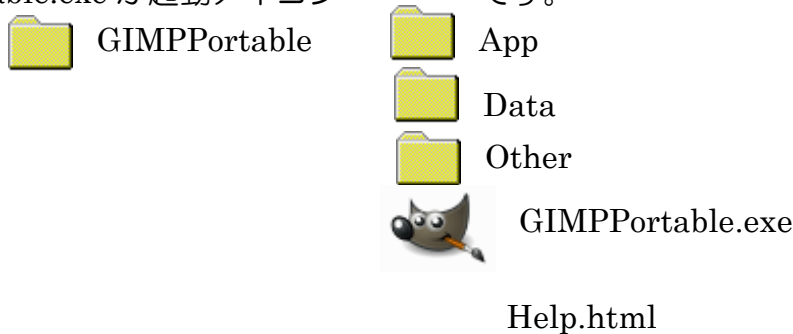
トリミングは Windows 標準装備である Windows フォトギャラリーでも出来ますからトリミングだけの目的で GIMP を使う必要性はありませんが、GIMP で他の機能を使用する際の1ステップとしてトリミングが必要な局面が多いことから説明します。

明るさ調整は「暗い部分を明るくする」と「明るすぎる部分を暗くする」は同じツールを使って行うことが出来るもので、実際の利用価値は「逆光で黒く映ってしまった部分を明るくする」だろうと思います。

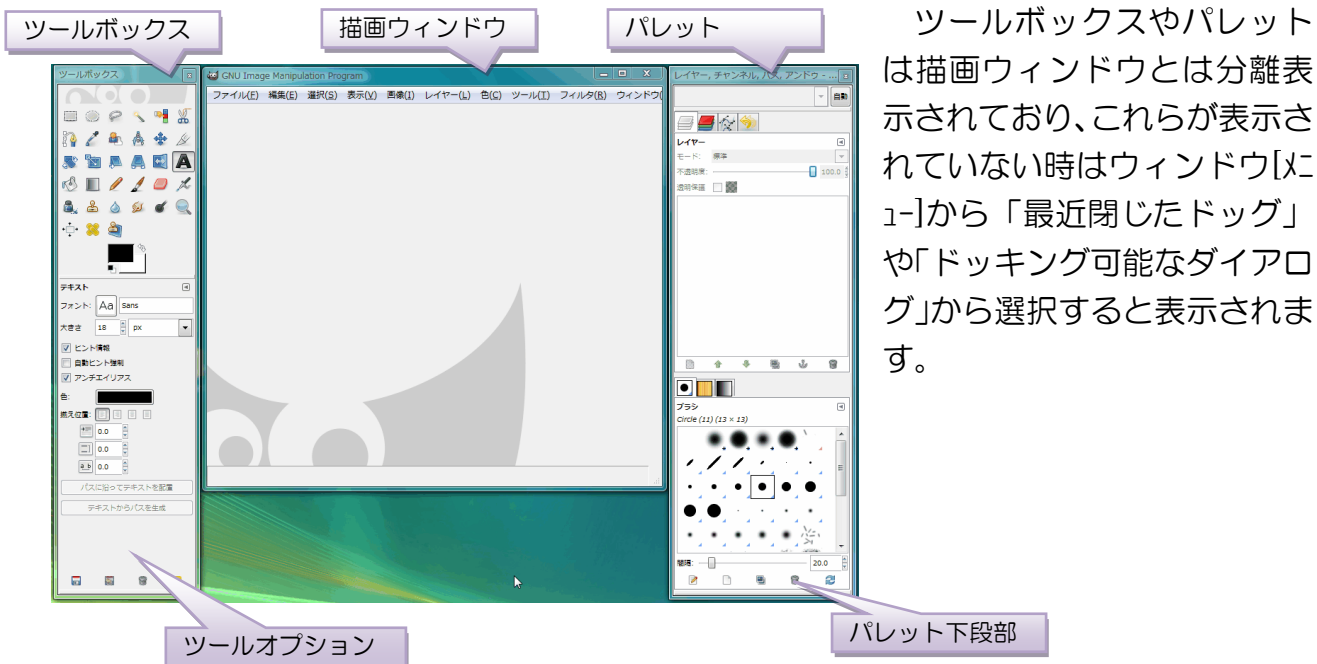
ほぼ同じような使い方で「色合いを変える・鮮やかにする」などがありますが、写真の真実性を変えることは面白加工として自己勉強の範囲として下さい。

## 1. GIMP を起動する

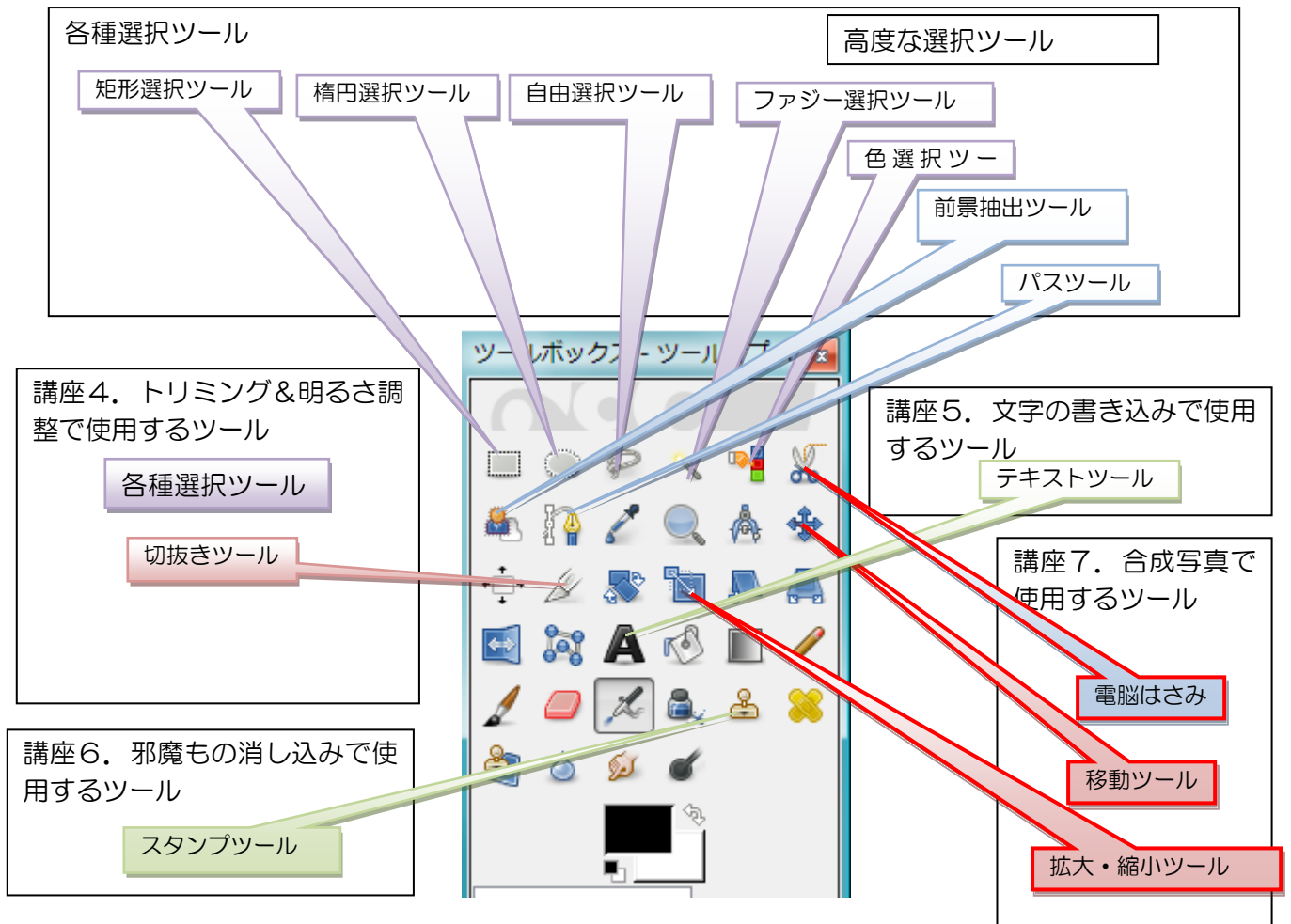
GIMPPortable は下記フォルダ・ファイルからなり、筆をくわえた動物アイコン GIMPPortable.exe が起動アイコン



## 2. GIMP の画面構成

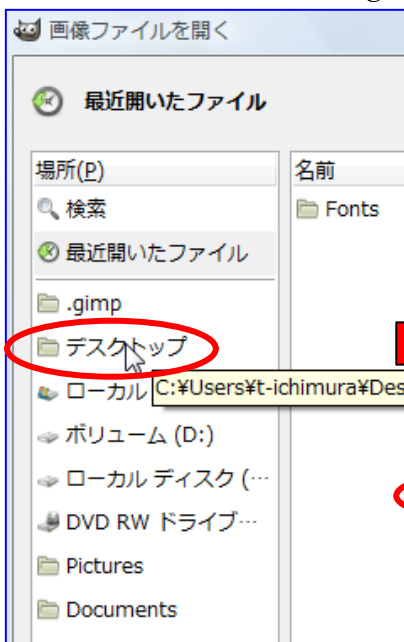


### 3. ツールボックスの主要機能

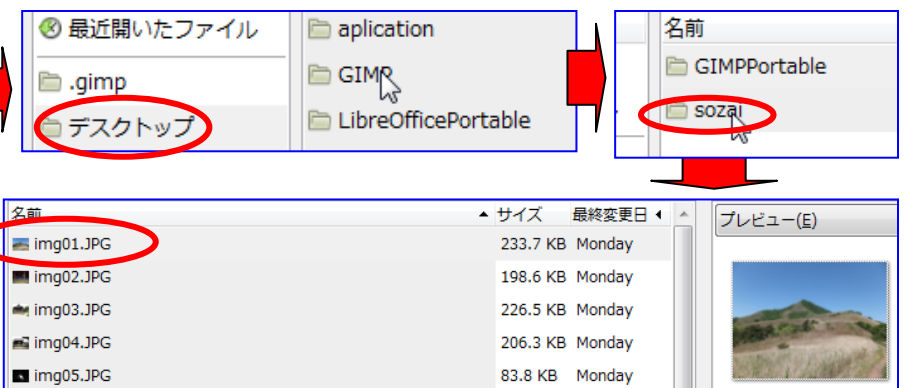


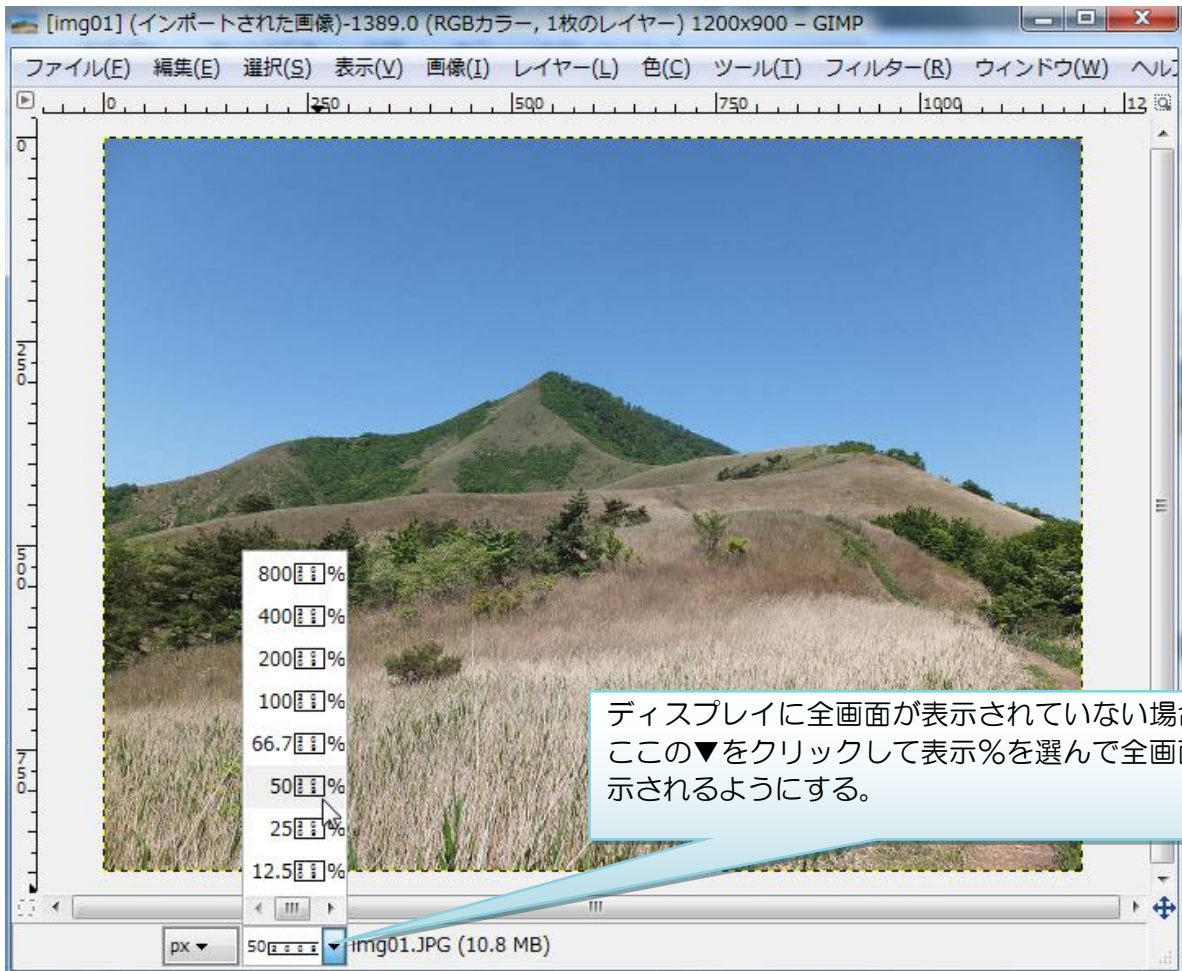
### 4. トリミングする写真を開く

- ①ファイル[メニュー]→開く／インポート
- ②写真を指定する(講座ではデスクトップに置いたフォルダ GIMP の中の sozai フォルダにある img01 を選ぶ)。



最初に下記ダイアログが開くのでデスクトップをクリックする(各自の写真を使用する場合は写真を保存しているドライブや Picture を選ぶ) 画像までの階層構造の中に日本語文字のフォルダ名・ファイル名があると開くことが出来ません。予め半角英数値に直しておく必要があります。



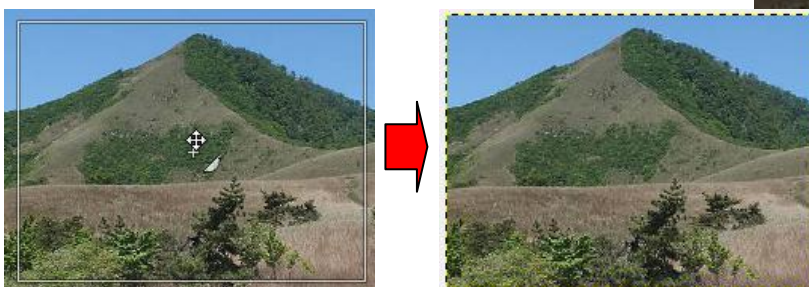
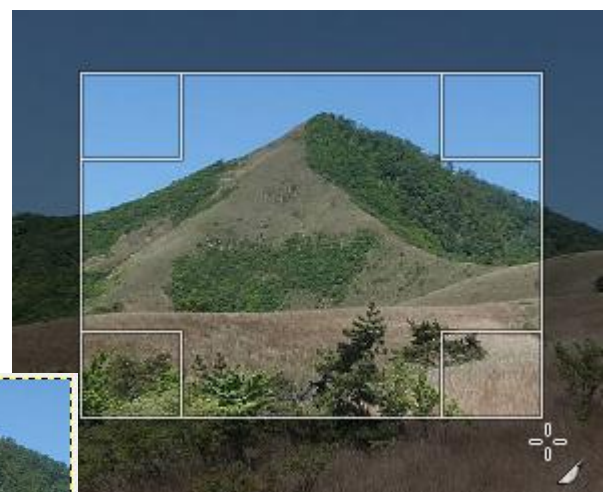
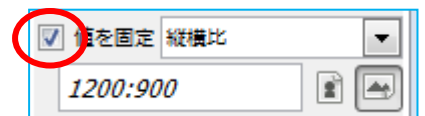
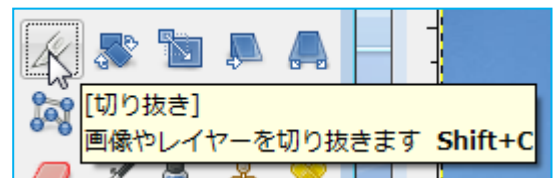


5. 範囲を決めてトリミング

矩形切り抜きでは3種類の選択があり、それぞれ少しずつ操作が違ってきます。

A. 原画サイズ比を維持してトリミング：

- ① ナイフ図柄の切り抜きツールをクリック
- ② ツールオプションの枠内に原画サイズが表示される
- ③ 縦横比値を固定にチェックを入れる
- ④ 任意の範囲をドラッグ(手を離すと選択範囲だけが明るく表示される)
- ⑤ 選択範囲内にマウスを合わせドラッグしてトリミング位置を決める
- ⑥ 選択範囲内でダブルクリックでトリミング

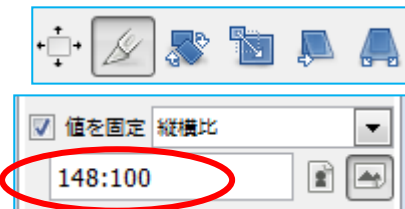


B. 用紙サイズ比を指定してトリミング

最近のデジカメサイズは横長（ワイド）が多くなってきていますが、プリントサイズはL版や2L、はがきとなると 100mm\*148mm。予めプリント用紙比率でトリミングしておけば、プリント写真を見て「あ！ 端が切れている！」などと云うことが無くなりなす。一般的なコンパクトデジカメの画像比率は 4:3(比率 1.33)

- L 127\*89 比率 1.42
- 2L 178\*127 比率 1.4
- はがき 148\*100 比率 1.48

- ① ナイフ図柄の切り抜きツールをクリック
- ② ツールオプションの枠内に原画サイズが表示される
- ③ 原画比率を消して利用するプリントサイズ比を入力する（ハガキなら 148:100）
- ④ 以下 A のステップと同じ

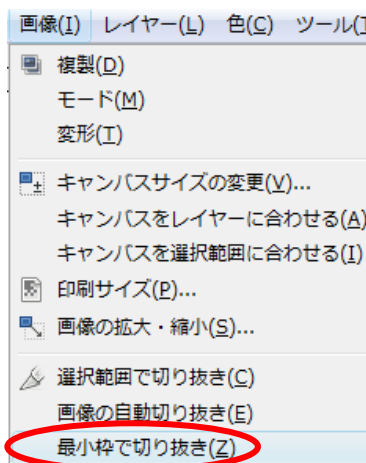
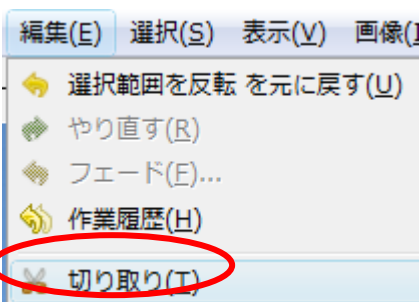
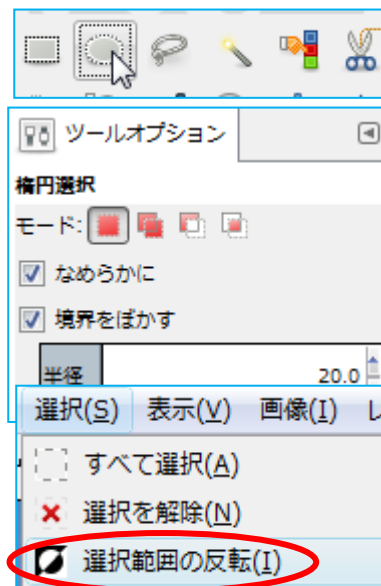


C. サイズ比無関係にトリミング

A 手順もしくは B 手順の縦横比の「値を固定」のチェックを外す。他は全て同じ。

尚、円形（楕円）形状トリミングは下記手順で行う。

- ① 楕円選択ツールをクリック
- ② 外周をぼかしたい場合はツールオプションの境界をぼかすにチェックを入れ、半径数値を指定する。画像サイズによって見え方が違うので、色んな数値でやってみて見え具合で決める必要があります。
- ③ ドラッグして範囲を描く
- ④ 位置決めは枠内をクリックしてドラッグ
- ⑤ 範囲が確定したなら、切り抜きの準備に入る
- ⑥ 選択[メニュー]→選択範囲の反転
- ⑦ 編集[メニュー]→切り取り
- ⑧ 選択[メニュー]→選択を解除
- ⑨ 画像[メニュー]→最少枠で切り抜き
- ⑩ ファイル[メニュー]→**エクスポートから保存**

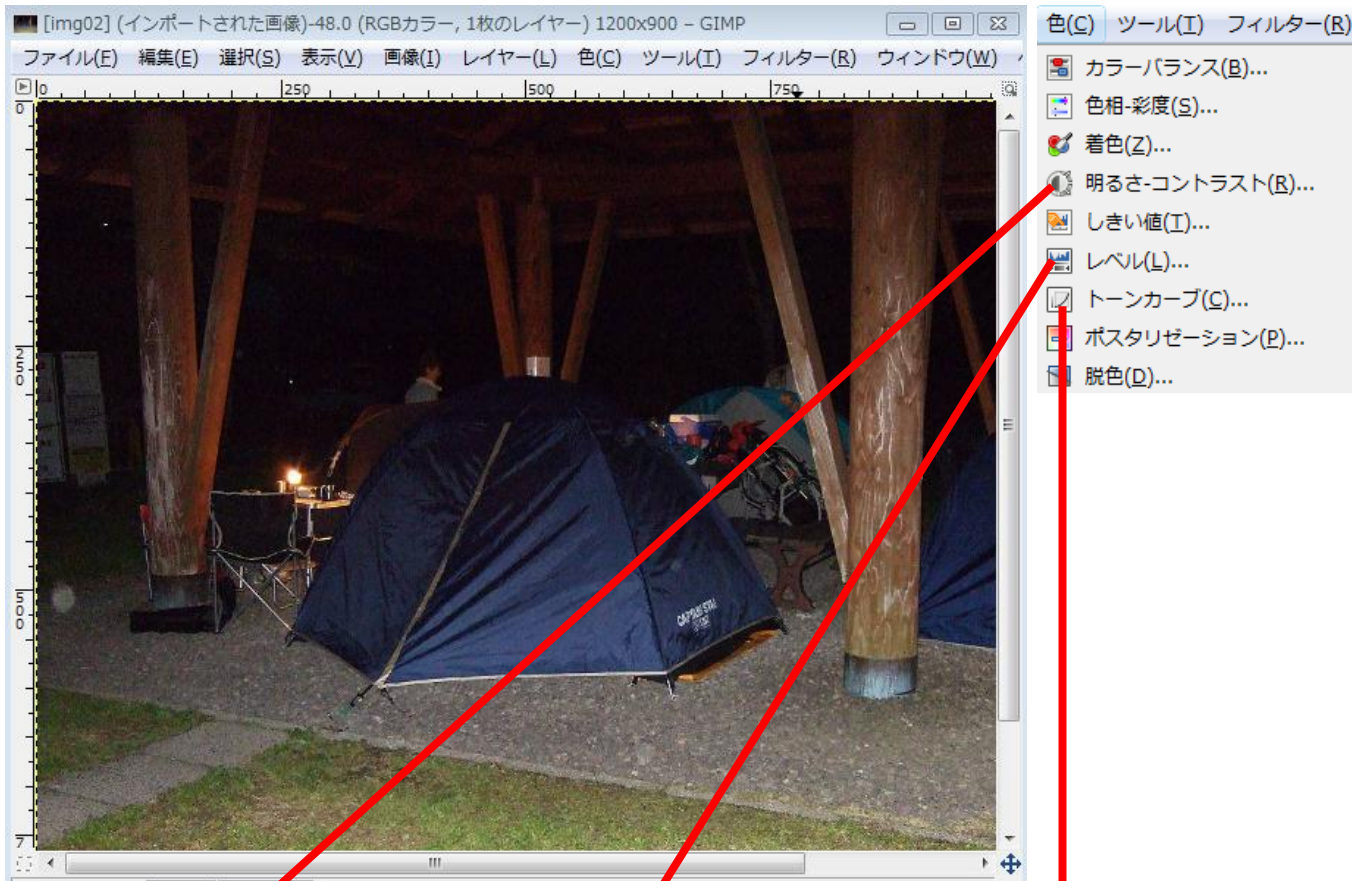


現実の作業では背景の透明化をしないと白い背景が残ったままですが、その操作を GIMP 講座初回に行うには難易度が高いことから後日の講座の中で説明していきます。

### 6. 写真の明るさの調整

明るさの調整には色[メニュー]の中に「明るさ・コントラスト」「レベル」「トーンカーブ」の3種類のツールがあります。

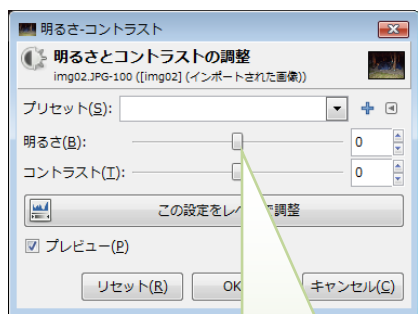
フラッシュが届くのは3m程度までですから当然の奥の方が見えていません。



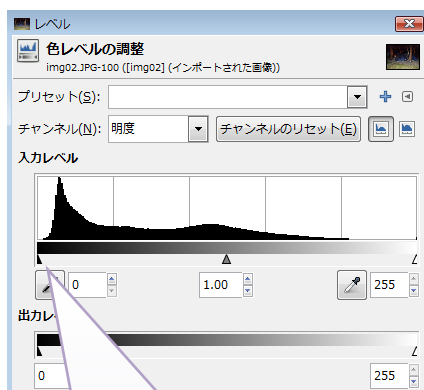
<明るさとコントラスト>

<レベル>

<トーンカーブ>

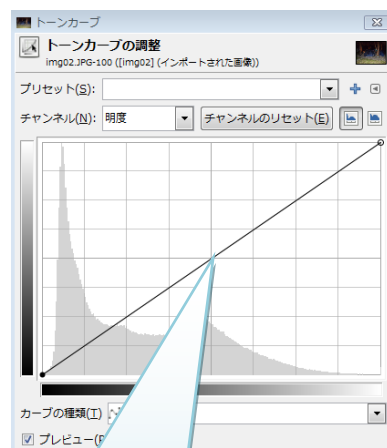


スライダーを右に移動すれば明るくなり、左に動かせば暗くなる。コントラスト（明暗）をハッキリさせる場合は下のスライダーを左へ動かす。



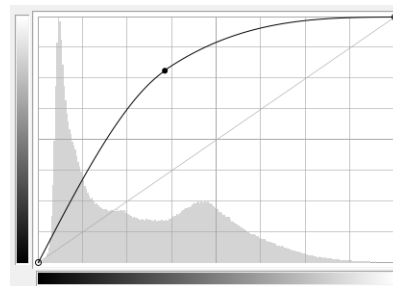
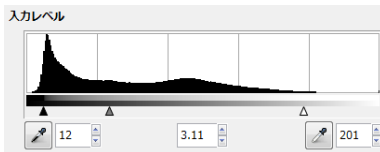
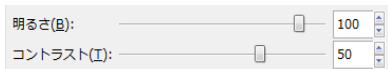
明暗分布（ヒストグラム）が描かれており、左側が暗部を、右側が明部分布状態を表す。

スライダーが3か所あり、左の黒▲は暗い色調（影）、中央の灰▲は中間的な色調、右の白▽は明るい色調（ハイライト）。右に動かせば暗く、左に動かせば明るくなる。



薄く明暗分布が描かれており、その上に45度の斜線。レベル同様に左が暗、右が明を表すと共に、45度斜線よりも上部が明、下部が暗。斜線上任意の位置を掴まんで上に動かすと明るくなり、下に動かすと暗くなる。何か所でも掴まむことができる。

どこまで調整するかによって違ってきますからどのツールが良いか難しいところですが3種類行ってみました。個人的には調整幅の大きいトーンカーブを多用しているが、写真によってはレベルが向いていることもある。



この手順による欠点は丁度よい明るさの部分までが明るくなってしまいます。範囲指定してその部分のみを明るくすれば欠点を補うことが出来るわけですが、その場合のポイントは範囲指定の境界を如何に目立たせないかと云うことで、以下にその方法を説明します。

## 7. 逆光写真を補正する

逆光写真で一番多困るのは人物写真ですが、人物写真を取り上げることは出来ないので適切な写真とは云えませんが建物の写真で補正します。屋根下部の構造が逆光で見えなくなっています。

- ① img03 を開く (ファイル[メニュー]→開く→デスクトップ→GIMP→sozai→img03)

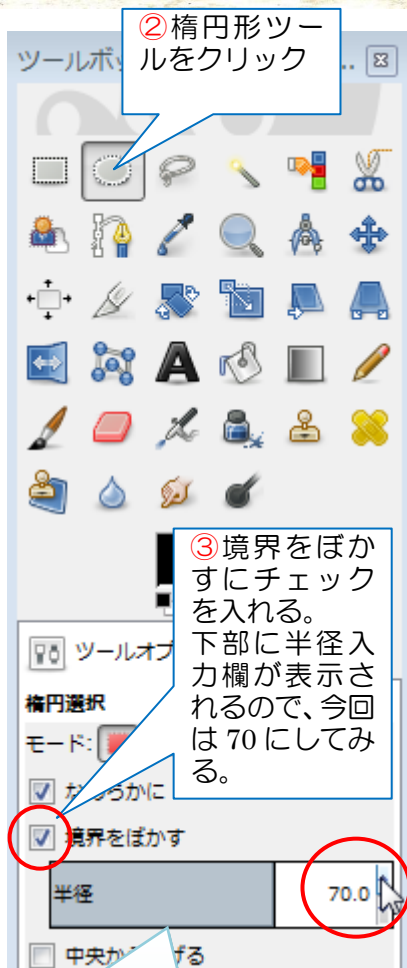


- ④ 暗く見えなくなっている部分を囲む

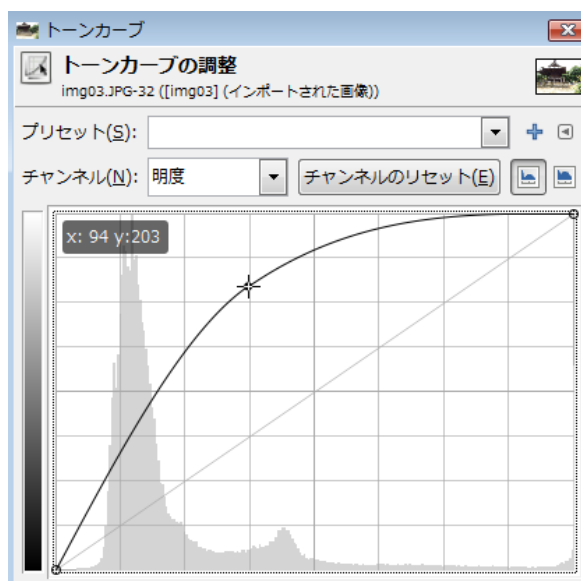


- ⑤ 色[メニュー]→トーンカーブ

斜線中央部を掴み、画面を見ながら上方向に持ち上げる。どんなカーブにするか(明るさ)は個人の好みです。明るくしすぎると色が飛び(減色)ますから注意。



明るくした境界を目立させず自然な感じにするのがこの設定です。半径の基準値わからずじまいですが、より具体的に設定する場合は、選択[メニュー]→境界をぼかす、を選ぶと px 単位で指定することが出来ます。



今回は GIMP 初回講座ですから一番シンプルな補正方法を紹介しました。より細かな方法は GIMP 基礎が一通り済んだ段階で紹介することにします。